

【保育者編】

章	ページ	箇所	意見要旨
全体	-	-	コミュニケーション支援ボードが使いやすいそうであるため、QRコードでダウンロードできるということも載せても良いと思う。子どもたちも、保育者も使いやすいものがあると良い。ドロップレットプロジェクトで作成されているものがインターネットで使用できるため、使用して欲しい。
第3章～第5章	19～42	-	スモールステップやペアレントメニューの内容を盛り込むと良い。子どもの好ましい行動を増やしていくための事例を増やすと良い。
第6章～第7章	43	相談機関との連携ポイント	担当保育者と相談機関との相談について、相談は保育機関等からではなく、保護者が紹介されてよくわからないまま相談に来ることが多い。保護者だけでなく、保育機関が関わる意味を強調しても良い。
第6章～第7章	47	就学までの流れの図	年長の9月からではなく、もっと早くから準備する必要があることが分かるように記載してほしい。H25に更新になった内容を記載する(教育委員会作成資料)。医療機関も半年は待つことになることを記載する。
第6章～第7章	44	「(10)医療機関」	現在掲載されている岩手県医師会の内容は正確性に欠けるため、県で作成している「岩手医療ネット」を掲載すると良いと思う。

【家族編】

章	ページ	箇所	意見要旨
全体	-	-	インターネットでダウンロードして見られるようにすることを前提として考える。保育園で言われてインターネットで検索した時に、サポートブックがヒットし、家庭と保育園では違うということが載っていると、保護者が発達障がいを受け入れやすくなると思う。
全体	-	-	保護者には、自分の子どもの発達障がいの可能性について、引っかかる気持ちと認めたくない気持ちがどちらもあり、障がいを受け入れるまでに葛藤する。自分の子どもだけが変まっているわけではないことが伝わるようにする。
全体	-	-	サポートブックのターゲットが誰かによって、記載する内容が変わってくる。今回は、まだ発達障がいに気づいていない保護者、今まさに困っている保護者の両方に見てもらえる内容にする。
第4章～第7章	18～19	体験記	母親が気にしていても父親が「こんなものだろう」という意識があって相談機関へつながりにくいこともある。また、保護者の立場では、自分が一番子どものことをわかっていると思いがちである。家庭での姿と集団での姿は基本的に違うこと、集団に入ると刺激が多く、家と違って苦手なことが出てくることが保護者に伝わる内容にすると良い。

【家族編リーフレット】

章	ページ	箇所	意見要旨
全体	-	-	リーフレットではなくポスターにし、家族編のサポートブックに繋がるようにして欲しい。すれば、何年も使用できるのではないかな。
全体	-	-	ポスターにQRコードを入れ、スマートフォンで閲覧できるようにすると良い。